遠藤笹窪谷湿地部エリアの生物モニタリング(2018年度)　　　　2019/2/25

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　岸一弘（日本生態学会　笹窪谷の会）、

◇確認された主な生物

１．植物

①ヒメミズワラビ：湿地性のシダ植物で、湿地環境の減少・悪化により減少している。県RDB2006の準絶滅危惧に位置付けられている。本種の確認は、湿地回復作業の効果を示す例と判断される。2013年、2017年に確認され、2018年は下記の記録が得られた。

　2018年10月９日：創出した止水で、群生を確認した。

②コアゼガヤツリ：湿地性の草本類で、藤沢市では局所的に分布するだけで、茅ヶ崎市では未記録である。当地では2014年に初めて確認され、その後は毎年記録されている。本種の確認は、湿地回復作業の効果を示す例と判断される。下記の記録が得られた。

2018年７月10日、10月９日に多数確認、

③チダケサシ：当地では湿地部の盛土により減少してしまったが、盛土されていないエリアで2018年４月８日に確認した。

④コケオトギリ：湿地性の草本類である。当地では、湿地部で2017年に初めて確認された。2018年は下記の記録が得られた。

2018年６月５日に確認し、７月10日には開花を確認した。

⑤ボントクタデ：湿地性の草本類で、当地では2014年以降に確認されるようになった。下記の記録が得られた。

　2018年７10月９日に確認。

２．昆虫類

①ヤマサナエ：生息環境の減少・悪化により減少しており、県RDB2006の要注意種に位置付けられている。水質の良好な砂泥底の流水に生息する。下記の記録が得られた。

2018年４月21日：成虫を６頭目撃し、細流で羽化殻４個を確認した。

2018年４月28日：成虫を６頭目撃した。

2018年５月15日：成虫を４♂目撃した。

2018年６月５日：成虫を２♂１♀目撃した。

②ハラビロトンボ：湿地環境の減少・悪化により減少しており、県RDB2006の要注意種に位置付けられている。当地では2017年から記録されるようになった種類で、湿地回復作業の効果を示す例と判断される。下記の記録が得られた。

2018年４月21日：成虫を２♂目撃した。

2018年４月28日：成虫を２♂目撃した。

2018年５月15日：成虫を１♂目撃した。

2018年６月５日：成虫を２♂目撃した。

③シオヤトンボ：湿地環境の減少・悪化により減少しており、県RDB2006の要注意種に位置付けられている。当地では2001年に記録された後永らく記録が途絶えていたが、2015年に14年ぶりの記録が得られた。2018年にも下記の記録が得られた。湿地回復作業の効果を示す例と判断される。

2018年５月15日：成虫を１♂目撃した。

④オオウラギンスジヒョウモン：藤沢市内では、2015年に当地でわずかな記録が得られているのみの稀な種である。下記の記録が得られた。

2018年10月９日：成虫を１♀目撃(湿地で産卵行動。ヒメジソで１卵確認)。

⑤シブイロカヤキリ：湿地環境の減少により、減少傾向にある。2018年４月21日に、オギ原などで１♂目撃し、２♂の鳴き声を確認した。

⑥ケラ：湿地環境の減少・悪化により減少しており、県RDB2006の要注意種に位置付けられている。下記の記録が得られた。

2018年４月10日：湿地部の保全管理作業中に５頭目撃した。

2018年４月28日：１♂の鳴き声を確認した。

⑦キンヒバリ：湿地環境の減少により減少している。下記の記録が得られた。

2018年４月28日：１♂の鳴き声を確認した。

2018年６月５日：１♂の鳴き声を確認した。

⑧クマコオロギ：湿地性のコオロギ類で、藤沢市では当地で確認されているだけである。下記の記録が得られた。

2018年９月24日：横断道で成虫を１♂目撃した。

2018年10月９日：成虫を１♀目撃し、１♂の鳴き声を確認した。

2018年10月10日：横断道と周辺の湿地で成虫を１♂１♀目撃し、２♂の鳴き声を確認した。

３．哺乳類

①ホンドカヤネズミ：草地環境の減少により減少している種類で、県RDB2006の準絶滅危惧に位置付けられている。下記の記録が得られた。

2018年４月21日：湿地部のクサヨシ葉上で、成獣を１個体目撃した。

2018年10月９日：湿地部のクサヨシで、球巣を１個確認した。

2018年10月９日：湿地部のオギで、球巣を１個確認した。